

【MagExtractor -Genome-トラブルシューティング】

トラブルが生じた場合には、以下の対策をご参照ください。

(1) 収量が低い、DNAが得られない

原因	対策
サンプル過剰	規定量以上のサンプルを使用されても、収量は上がりず、むしろ収率は低下します。サンプル量を適正 にしてください。
破碎、溶解が不十分	<p>(組織、マウステールの場合) サンプルの前処理(p4~5)が不十分なことが考えられます。①の前処理方法(溶解・吸着液での溶解)の場合には、時間をかけて(5分間以上)、組織の固まりが見えなくなるまで十分にホモジナイズ を行ってください。</p> <p>また、ホルマリン固定組織等の一部のサンプルでは①の方法では溶解できないことがあります。②の前処理(Proteinase Kでの溶解)を行ってみてください。</p> <p>(グラム陽性菌などの場合) サンプルがグラム陽性菌であるなど、本キット添付の溶解・吸着液で溶解できないサンプルの場合には、特別な溶解処理が必要です。例えば、酵母の場合には、あらかじめZymolyaseなどの溶解酵素により、細胞壁を溶解しておく必要があります。</p>

- ・ なお、サンプルの種類や保存状態により、収量(収率)は変動します。

(2) PCRがうまくいかない

原因	対策
回収液中に混在するエタノールによる阻害	<p>反応液の1/5を超える量を使用すると反応が阻害されることがありますので、その場合には使用する液量を減らしてください。</p> <p>また、回収液を75°Cで5分間程度、加温することにより改善されることがあります。</p>

ターゲットサイズが長すぎる	抽出されるDNAの平均鎖長は40kb程度(全血DNAの場合)ですので、一般的なPCRの鋳型としては特に問題ありませんが、ターゲットサイズが5kb以上の場合には、PCR酵素の性能上、増幅しにくい場合があります。その場合には、KOD Dash DNA Polymerase (Code No. : LDP-101) などのLong Distance PCR用酵素の使用をおすすめします。
---------------	---

- ・ その他のPCRに関するトラブルシューティングは、弊社各種PCR用酵素の実施例集やPCRに関する解説書等を参考にしてください。